

平成20年度戦略的研究開発プラン採択課題一覧

番号	実施機関	課題名	研究の概要	(実施年度) 研究費総額	共同研究先
1	環境衛生研究センター	和歌山県地場農産物に対応した残留農薬の新規多成分分析法の開発	これまでの残留農薬の分析法に代わる、厚労省の通知試験法と同等又はそれ以上の性能を有する方法でありながら、より簡便で迅速に分析できる新規多成分一斉試験法の開発、実用化を目指す。	(平成20～22年度) 15,000千円	県農業協同組合連合会 那賀振興局 農業試験場
2	工業技術センター	県内産パイル織物を用いた災害時・緊急時対策用マットの開発	パイル織物を用いて、①非常時など必要に応じて空気を充填することで資材として使えるマット、②必要とされる強度と柔軟性を有した軽量構造材、の2種の資材開発を目指す。	(平成20～22年度) 16,900千円	オーヤパイル(株) 京都工芸繊維大学
3	農業試験場	養水分制御とGIS解析による高糖度モモの安定生産	「白鳳」について、土壌の実態把握や栽培環境のデータを収集し、高糖度モモ生産のための要因解析を行う。 マルチ、草生栽培による養水分制御が果実品質に及ぼす影響について調査するとともに、水分ストレス指標を作成する。 園地データ、土壌データなどをGIS上で統合・解析することで生産技術の普及を図る。	(平成20～22年度) 15,855千円	JA紀の里 和歌山大学 かき・もも研究所 那賀振興局
4	果樹試験場	異常気象に対応した温州みかん新灌水指標の作成	土壌水分、日射量、気温、温度などを計測し、それを解析することによって、気象変動に即応した灌水指標を、土壌タイプ・生育ステージ別に作成するとともに、実用性の検証を行う。	(平成20～22年度) 17,000千円	有田川土地改良区 大阪府立大学
5	うめ研究所	うめ園地若返り技術の開発	連作障害の発生機構を明らかにし、炭による生育阻害物質除去技術を確立するとともに、生育阻害物質除去に優れた安価な炭の作出技術を開発する。また、地域内の未利用資源を活用する観点から、改植時に発生するウメ伐採樹や林産物資源を活用した炭化や堆肥化法を検討する。	(平成20～22年度) 19,246千円	紀州うめ研究協議会 鳥取大学 林業試験場 エコ農業推進室
6	農業試験場	二酸化炭素を用いた種子ショウガの貯蔵害虫防除の実用化技術開発	種子ショウガの害虫被害を防ぐため、酸素不足による窒息殺虫効果を狙った二酸化炭素くん蒸処理による農作物に安全な新防除技術の開発を行う。	(平成20～22年度) 5,000千円	昭和炭酸(株) (株)丸野 わかやま農業協同組合